第２３号

東稲ニュース

早稲田大学東久留米稲門会

平成１７年７月１０日発行
発行責任者　帆角　信美
編集責任者　比護　喜一郎
http://homepage2.nifty.com/35292/

会の告知板

9月12日(土) 第11回映画鑑賞会　14:00～　市民プラザホール
上映作品：「旅愁(September Affair)」（監督 ウィリアム・ディターレ）
ジョーン・フォンテイン、ジョセフ・コットンが演じる珠玉の愛情物語。大ヒットしたテーマ曲「September Song」が一層の叙情を添える。（詳細追ってご案内）

8月 7日(日) 第3回定時役員会　13:30～　中央公民館第3集会学習室

[部会スケジュール]

書道部会　例会毎月第２日曜日　１３：３０～１６：３０　中央公民館２Ｆ
９月７日・８日　練成会　榛名湖畔

太極拳部会　毎週土曜日　１０：００～１２：００　成美教育文化会館１Ｆ

俳句部会　７月１７日(日)　13:30～17:00　兼題：「日傘」　中央公民館２Ｆ
９月４日、10月16～17日（吟行）、11月23日、12月23日（兼忘年会）

囲碁部会　毎月第４日曜日　１３：００～16：30　成美教育文化会館３Ｆ和室

東稲広報室

○推薦校友候補者推挙のお願い

早大校友会では、校友会規則、推薦校友選考規定に基づき、有資格者を校友会会員に迎え入れるべく広く応募を求めています。推薦校友とは、人格、識見その他早稲田大学校友として推薦に足る人物で、代議員会で承認される者ですが、該当される方々がおられましたら推挙戴きたくお願いします。候補者申請締め切りは８月１日（月）（校友会事務局必着）となっておりますので、早めに当会平山事務局長に詳細お問い合わせの上申請下さい。

○当会会員・吉田利宏さん（６２年法学部卒）が今般、ダイヤモンド社から「法律を読む技術・学ぶ技術」を刊行しました。衆議院法制局の立案スタッフとして１５年の経験を集約して、万人向けに書き上げた解りやすい法律解説書。

○平成１７年度新入・再入会員　（平成１７年５月１日～３１日・入会順・敬称略）
園部　佳朗　　上の原
小野　泰右　　大門町
＊５月３１日現在、本年度新入会員は計１２名（再入会員１名を含む）となりました。
尚　１７年度当会会費未納の方々は、早急にお振込み下さるようお願い致します。

○早稲田大学校友会では、会費納入促進キャンペーンを行っています。各位のご協力をお願いいたします。新しく納入される方には「金の栞」がプレゼントされます。

○　４月１日、個人情報保護法が全面施行されたことに鑑み、従来年度毎に作成、お届けし

ていた会員名簿は、今年度より作成配布を取り止めることとしました。以後、会員情報は事務局で管理しますので、必要時事務局にお問い合わせ下さい。（６月５日役員会決議）

＊ 訃報＊　４月、猪狩清二郎さん（３７年・法卒）が逝去されました。氏は囲碁部に所属し、広く活躍されていました。衷心よりご冥福をお祈りいたします。

＜特別寄稿＞

自己採点すれば５５点　－「杜の西北」編集降記

国米家己三（昭和３１年・政経）

「ヒューマン・インタレスト」――。これは「週刊朝日」の編集長だったころの扇谷正造さんの造語です。雑誌の記事を喜んで読んでもらうには、紙面をどこまでも、どこまでも人間臭くするのが一番。昭和３０年代の初め、編集者の間では、これがちょっとした合言葉の一つになっているように思います。

折しも、そのころは週刊誌の創刊ブームでした。それまでの新聞社系週刊誌とは別に、「週刊新潮」が出版社系の週刊誌として初めて名乗りをあげ、「週刊文春」「週刊公論」（中央公論社）「女性自身」（光文社）などが次から次とあとに続きました。有名な高利貸しの森脇将光氏まで、「週刊スリラー」の創刊でブームを煽ったものです。各誌、取材記者にも変種を起用して人間臭さを競いました。まだ「フリーライター」や「ノンフィクション作家」といった職名もないころで、新規参入の出版社系は取材現場に「トップ屋」というのを送り込みました。そのトップ屋で勇名を馳せたのが「週刊文春」の梶山季之氏。のちに「黒の試走車」という作品がヒットして、作家に転身した男です。実は彼とは、朝鮮・京城の南大門小学校の校友同士。引き上げ後しばらくして、広島から「こんど文芸誌『天邪鬼（あまのじゃく）』を始めることにした。同人になってくれ」といってきたことがありました。トップ屋時代にも誘われて銀座のバーで飲んだことがあります。

「ヒューマン・インタレスト？　そういうけど、人の心の奥には入れないからなあ」少し焦点のずれたこんな答えが彼の口から返ってきたのを、いまも記憶しています。

さて、東久留米稲門会の会報「杜の西北」。この編集を引き受けたとき、まず頭をよぎったのが、やはり「ヒューマン・インタレスト」でした。固くなりがちなトップの記事は、対話のスタイルを導入することで少しはソフトにできるのではないか。会員の寄稿欄に、それぞれの大学生活を回想して書いてもらう「わが早稲田時代」を設けたい。しかし実際には山ほどの失敗をかさねました。第１０号の白井克彦総長と当稲門会の高橋勤会長(当時)との対談に、総長の全身像を目一杯大きく掲載して読者のアイキャッチャーにしようという目論みは、「派手にやると他の稲門会からの取材申し込みが急増する」と総長秘書室に反対され、あえなくアウト。「わが早稲田時代」では、会員から原稿を募ったものの、応募ゼロ。強い自己発信力が身上のワセダマンのこと、応募は殺到するだろうという“読み”は、みごとにはずれました。また、各部会の活発な動きを報道することは必須。どの部会も部会長からの原稿で紙面を埋めましたが、これは平板な紙面づくりの誇りは免れません。もっと工夫して、例えば、各号、輪番に２，３の部会を決め、部会長をインタビューして生の声で活動状況を語ってもらうべきでした。また紙面設計、つまりレイアウトも、生来センスがなく、人間臭くもなにも、完全に落第。「杜の西北」を降板して、創刊から１０号までの全体を自己採点してみると、５５点ぐらい。まさに忸怩たる思いです。

いずれにせよ、貴重な会費を使い、編集委員や部会長の方々、そして役員、会員のご協力を得ながら、足かけ１０年もの間「杜の西北」の編集にたずさわることができたことに、深甚なる謝意を表したいと思います。本当に皆さんのご支援とご協力がなければ、とうていできなかったこと。誠にありがとうございました。早稲田の校友会活動は、それぞれの地域で歴史的というか、記念碑的な一面をもっているという気が、私にはしてなりません。これからも東久留米稲門会がますます発展してゆくことをこころから祈るばかりです。

会の行事

平成17春季東京六大学野球・早慶戦観戦会

六大学野球ファン８人が１２時に神宮球場に集まり、内野席の上段に陣取り、早慶戦第一戦を観戦した。今季は勝ち点を挙げた方が完全優勝となる２７年ぶりの早慶戦で、観衆はほぼ満員だった。

試合は早稲田がエース宮本の完投と４番２年生田中幸の満塁ホームランにより４対２で先勝した。校歌の斉唱、エールの交換を学生と一緒に気もちよく行ってから球場をあとにし、途中乗換え駅練馬の居酒屋にて勝利の祝杯をあげた。

なお、今回は卒業以来ほぼ４５年ぶりで早慶戦を観戦した方が８人中に３人おられ球場の熱い雰囲気に感激された様子であった。

翌２９日(日)第２戦は慶応が勝ち、第３戦にもつれ込んだが、最終戦は投打ともに勝った早稲田が勝利し３季ぶり３７度目の完全優勝を果たした。　　（森田　隆記）

ウォーキングを楽しむ集い

第１２回　―　横浜・みなとみらいから山手西洋館へ

平成１７年５月１５日（日）　晴時々曇り一時雨

昨年、横浜に新しい地下鉄「みなとみらい線」が開通して東急東横線と相互乗り入れ運転を始め、ちょっと遠くに感じていた元町や中華街が乗り換え無しの３０分ほどでいけるというので一度行ってみたいと思っていましたから喜んで参加しました。

前々回の東京都庁と明治神宮初詣のときは２０人以上と賑やかな会だったので、今回は天気はまあまあだし、さぞかしと思い西口に行ってみると全員で９名とやや少なかったが、皆勇んで横浜に向かう。

みなとみらい駅から長い階段を上がって地上に出ると、３０年ぐらい以前に軍艦「三笠（？）」を見に来た時に比べてランドマークタワーを始めとするビル群あり、コスモワールドの観覧車ありで、浦島太郎の気分でした。

日本丸を見学する。練習艦として使われていた当時のそのままに保存されていて、若かりし頃に船乗りに憧れていた当時に思いを馳せた。

馬車道を通り、赤レンガのビル群を右に見ながら進むと左側に「工作船資料館」という建物があった。最初はピンとこなかったが、２００１年１２月海上保安庁の巡視船との銃撃戦の末自爆した北朝鮮工作船を展示した「海上保安庁資料館」と解り興味を引いた。昨年１２月にオープンしたとの事、銃撃戦の時の生々しい弾痕や自爆の跡が印象的だった。

資料館を出る頃から雨が降り出し、皆傘を広げ、大桟橋まで歩く。丁度時間でもあり、送迎デッキで横一列に並び静かな海面をのんびりと眺めながら弁当を食べる。

横浜港では一般参加のレガッタレースが行われており、山下公園はその参加者で賑やかだった。氷川丸をバックに皆で写真を撮る。

この公園の時点で予定時間が１時間以上遅れていたので、横浜「人形の家」（改装中で休館）、港が見える丘公園、外人墓地、元町公園に隣接するエリスマン邸/ベーリックホールを足早で立ち寄り、待望の中華街に入る。

慰労会場は幹事さんがかねて選んであった周富徳の店。下戸の私も本場の中華料理が食べられるという事で参加させていただき、約２時間美味しい料理をご馳走になり、楽しい談笑のひと時を過ごしました。皆様の酒豪振りには驚きました。

帰りは、元町・中華街駅から乗車、６時ごろ東久留米駅に全員無事に帰ってきました。　（島田　好多記）

＊６月２６日（日）の第１３回ウオーキング会、皇居東御苑から靖国神社へは都合により中止、延期となりました。

第１０回第映画鑑賞会　「旅情」

５月２２日（日）、初めてイギリス映画を採り上げてみました。回を重ねるごとに多くのオールド映画ファンが集い、今回は１５０名を超す盛況で、市民プラザホールは満杯、一部入場をお断りしました。水の都ベネチアに観光にやって来たハイミスのアメリカ女性が、現地の中年男性とつかの間の恋に落ちる。

詩情溢れる映像で、女性の心の細部、愛のはかなさを描き出す。美しい風光とさわやかな旋律にのせて、笑いあり涙ありで、観客を魅了しました。

今回は久家、森田両氏が映像技師として初挑戦。若干画面が横広がりで、痩せ型のＣ.ヘップバンが太めに見えましたが、かえって美しくみえました。２時の開映に、午前中からみえる熱心なファンが居り、今後も増える傾向があるので、次回からの案内は先着 140 名様と限定することにします。　（米光慶二郎記）

部会便り

ゴルフ部会

６月１７日（金）太平洋クラブ＆アソシエイツ江南コースで行われた東久留米・稲門会対三田会ゴルフ会にはじめて参加し、はからずも優勝させていただきました。といっ

ても、グロスでは一回り以上年配の太田大先輩より２つも多い９０で、参加１９人のうち５番目ですから、威張れたものではありません。そのうえ団体の対抗戦では３連敗を喫し残念でなりません。でも素晴らしいコースと天気に恵まれ、両校の先輩の皆さんと知り合いになれたこと、そして楽しく懇親を深められたことで、本当に楽しい一日でした。

ゴルフのキャリアは４０年ですが、若い頃はハンディ１２の壁が破れず、近年は極端な運動不足と酒の飲みすぎで１００以上たたくこともしばしば、これではいけないと大いに反省し、昨年より心を入れ替えレッスン書を読み直したおかげで、徐々スコアが上向いてきておりました。今回、練習生のキャディのおかげで、ゴルフは技術もさることながら計画性と決断が重要であるということを改めて実感できたことが収穫でした。

これからは頭を使ってコースの攻略を考え、自信を持ってショットに集中することを心がけ、夢のシングルに挑戦したいと思っています。　（村野　建彦記）

太極拳部会

晴れ男達．晴れ女達に万歳！　５月１４日（土）航空公園にて野外演舞。
五月の陽射しも緑の芝生一面に拡がって、心豊かに演舞が出来ました。頬をなでる爽やかな冷気、時々流れてくる太鼓のリズム、通り過ぎる車輪の音、かすかに聞こえる小鳥の囀り鳴き声、自然の中の素敵な野外太極拳でした。　（部会長　船尾和三記）

俳句部会

５月２２日（日）第６５回例会　中央公民館第５集会学習室
兼題　「子蟷螂」と当季自由句　席題　「ビール」
当日の高得点(3点以上)句

子を抱く羅漢もありて若楓	河村　洋子
ビール酌む膝に弁当ひとり旅	大久保泰司
湯上りのビール無口な友と酌む	神田　尚計
子蟷螂はかなき斧をふりあげる	松田　博雄
蒼天を白雲一片夏つばめ	神田　尚計
万緑や串まで焦げて五平餅	太田蔵之助（千雪）
落武者の拓きし湯宿菖蒲咲く	三田　三（畔巣）

＊次回は７月１７日（日）１３：３０より、中央公民館第３集会学習室。兼題は『日傘』と当季自由句。
部員でない方からの投句歓迎します。

囲碁部会

5月22日(日)、日本棋院市ヶ谷本院にて第5回オール早稲田囲碁祭(首都圏)が成功裡に執り行なわれた。今回は過去最多の250人が参加、特筆されるのは級位者チームが大会に加わったことで、ともすると高級者優位に進められるこの種の大会に新風を吹き込んだと言えよう。当部会からも2名が参加し、日頃の実力を充分発揮した。

大会の戦績は、Aチーム　4位(8チーム中)、Bチーム　3位(6チーム中)とまずまずであった。

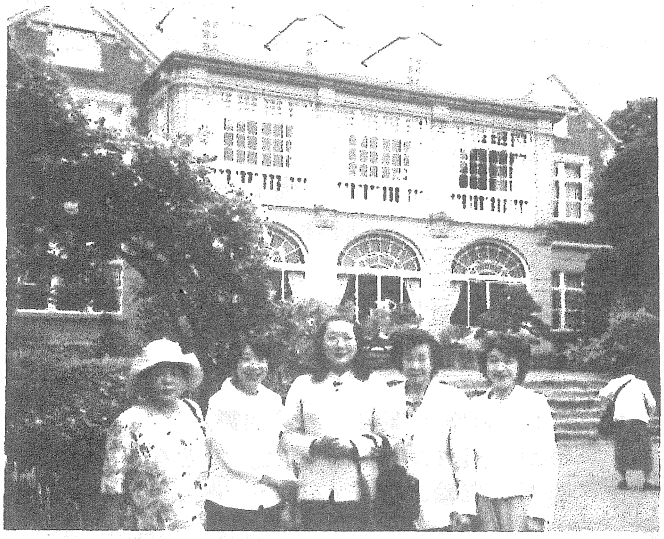
6月18日(土)、東村山市民センターで、恒例の三地区(東村山、西東京、東久留米)合同の囲碁会を開催、当部会から7名が参加、囲碁三昧の一日を過ごした。

最後に、悲しい知らせがあります。当部会の会計を担当されていた猪狩初段が、闘病の甲斐なく4月末に他界されました。心より哀悼の意を表し、ご冥福を祈りたいと思います。

（部会長　辰己　徳蔵記）

女性サークル

梅雨のはしりを思わせる6月２日(木)、文京区音羽の丘の鳩山会館を訪ねました。



日本の近代政治と教育界に貢献した鳩山家がの遺した会館は実に整然と構えられ、各部屋に遺された数々の品に目を見張りながら、まさに戦後政治の原点を見る思いでした。

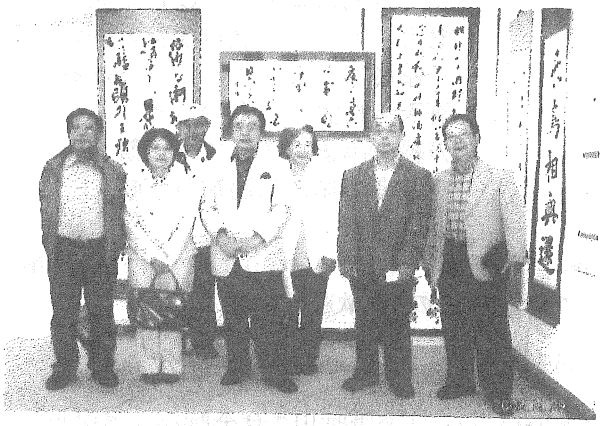
都心とは思えない心地よい空気に包まれた庭園は色とりどりの美しいバラを咲かせていました。冬の手入れがよろしいのか、花も葉もきれいで、都会の喧騒を忘れさせてくれました。バラは人の心をおおらかにすると感じました。楽しい一日でした。

（部会長　棚野愛子記）

書道部会

第２回游筆倶楽部展覧会の鑑賞ツアー

５月 30 日（月）武藤部会長以下６名が２台の車で雨の東久留米駅を出発、一路三浦半島の久里浜へと向かう。福田さんが所属している游筆倶楽部に当会が友情出品したことから揃って鑑賞に行こうというわけだ。展覧会場の湘南金庫久里浜支店の入り口には、福田さんの水墨画「竹」が描かれた看板が建てられており、４階のギャラリーには墨一色の気品ある山水、色彩鮮やかな花鳥の水墨画が展示されている。書の方へ目をやると主催の吉武茎秀先生の見事な作品をはじめ、初々しさを感じさせる小品から墨痕淋漓とした力作まで数十点が展示されている。特別出展と銘打たれた当会書道部の作品 18 点に、吉武先生はその作者夫々に感想を語ってくれた。



会場を辞し、帰路観音崎の京急ホテルで海の幸を味わい、東久留米駅前の鮮乃庄で打ち上げを催しツアーは終了。

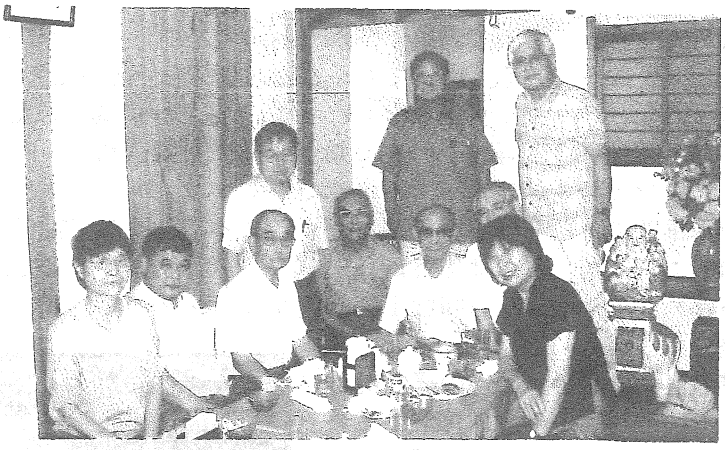
グルメ部会

６月２５日(土)、梅雨時なのに真夏のような暑さの中を、石神井公園駅から徒歩１０分。午後１時、中国料理の店・春秋園に着く。路地のラーメン屋という感じの小さな店だが、味は本格的で値段も手頃、口コミで人気が広まったという。

料理はおまかせの春コースで、蒸し鶏肉の香味かけ、椎茸と青菜の炒め、海老のマヨネーズあえ、牛肉の黒胡椒炒めなど、旨み調味料を使わない濃いめのしっかりした味付けである。

店主お薦めの１０年ものの陳年紹興酒が口当たりよく、青島碑酒（ビール）もあり、思わず杯が進む。そして人気の麻辣(マーラー)豆腐、レタスのオイスターソース炒め、点心

のニラ饅頭、デザートは冷たい愛玉子か仙草のゼリー。座敷が狭いため、１０人で一杯で、大勢が参加できなかったのは残念であったが、３時過ぎ、長老の川俣さんの音頭による一本締めでお開きとなった。
（部会長　神田尚計記）



カラオケ部会

７月２日(土)、１７名の多数の参加を得て、ほぼ半年振りに開催された。新しく参加された方々も多く、各人自慢の喉を披露した。予約時間の４時間は、この日のために習得したという新曲や懐メロ、談笑であっという間に過ぎ去った。

終宴に『紺碧の空』『都の西北』を歌い上げ散会した。

第１６回東久留米稲門会講演会－講演要約

６月５日(日)午後３時から中央公民館第１・２集会学習室において、元東久留米郷土研究会会長の野崎市郎氏による下記演題の講演会が開催された。先ず、「講」とは何かを、「東久留米市文化財資料集」から引用され、元々は仏教の行事であり、上層階級から徐々に庶民の行事として広まったことを解説されてから、東久留米の講の過去から現在に至るまでを、洒脱に話しされ、５０名を超える聴衆を飽きさせない１時間半の講演会であった。以下は講演要約ですが、講演会詳録は追ってホームページに掲載する予定です。

講演会責任者　鮎貝　盛和

郷土民俗行事『講』について

野崎　市郎（元東久留米郷土研究会会長）

東久留米地元の講には「稲荷講」「念仏講」などあり、他地域への講としては「大山講」「般若講」「御嶽講」「富士講」などがある。

講に入るか入らないかは自由で、いわゆる「脱入会自由」である。

「講」そのものは農民が創ったものではなく、三峯山や御嶽山のように山の上にある社寺の「御師（おし）」と呼ばれる人が、粟や米を集めるのに、農村を巡り、「本山は火伏（ひぶせ）のご利益がある」とか「本山は盗難予防にご利益がある」などと言って、お札(講札)を売り、講を勧め広めたものである。

社寺間は競って、いろいろ目新しい趣向をこらし、講の普及、獲得に努めた。

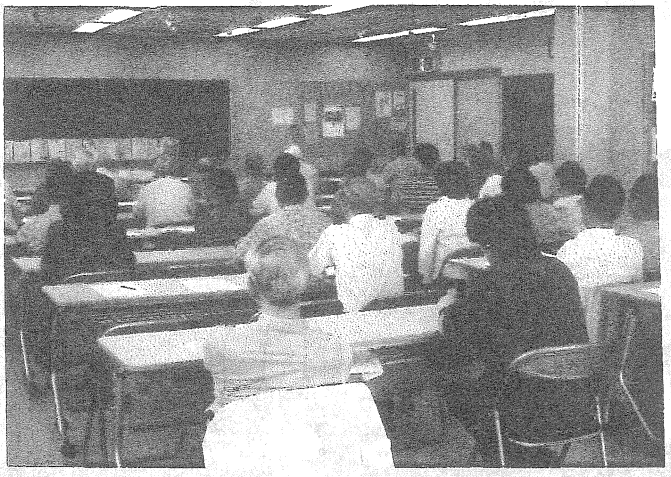
講ができると、講の代表数名が「代参講」と称して社寺にお参りに行き、講員の数だけのお札を受取ってくる。帰ってくると「お日待ち」と称して、講員が集まり、夫々にお札を渡し、うどんを作り酒盛りをした。「お日待ち」は講の数だけ行われ、３講社あれば３回行った。戦後は、合理化されて３講が１講に合同され、開催も年１回になり、うどんも止めて、コンビニなどの食品に変わってしまった。

明治維新の神仏分離令（廃仏稀釈）によって、それ以前は１７０以上もあった講が、７０前後に減り、現在では10ほどにまで減ってしまった。鉄道の発達によって、それまで信仰が目的だった講も、信仰は１割、残りはレジャー（遊山）というふうに姿形を変え、広く浅く広まっている。

講の寿命は短い。社寺の経営競争でいろいろな講が創られたが、職業（商売)に絡む講は、その職業が衰退すればその講は無くなる。長続きしているのは農業だけである。

また、火伏や盗難予防などの講はあるが、地震避けの講は無い。各企業で行っている交通安全祈願とかの参拝は新しい形の「講」と言えるのではないか。

現在東久留米市にある講は、「三峯山」「榛名山」「御嶽山」の３社である。



＜会員リレーエッセイ＞　　**～噴水広場～**

健康について －　“世のため　人のため　ちょっとだけ自分のため”

平岡　政澄　(36年･法)

私は昭和８年生まれで７１歳。今の天皇陛下と同じ年齢です。私の生地は四国徳島県の吉野川の中流北側、阿波郡市場町です。父が神主を務める出雲大社教香美（カガミ）教会所で次男として生まれました。兄は３代目教会主、神主として現在に至っています。

昭和１６年１２月８日、大東亜戦争が真珠湾攻撃で始まりました。私の小学校低学年の時で、今のイラクのような状態で、空にはＢ２９、グラマン。地上にはオモチャの形をした爆発物、機銃照射、夜は消灯、防空壕、焼夷弾、停電の戦場でした。私の通学した国民学校は兵隊の拠点で、防空壕を堀り、神風特攻隊の発進基地となった。

我が家（教会所）は５０畳位の大広間があり、戦争時代は兵隊が兵舎として利用していましたので、軍隊の様子が良く解りました。物がなくても精神力で勝ち抜こうとの基本精神です。金属類は供出。食べるものはスイトン、乾燥イモ、イナゴ、ヨモギ等。

誰しも健康について考えている。健康を保持するには両親、年配者のアドバイス・指導が大切なことは敏感に感じられます。〔健康〕というこの２文字は、何時も揺さ振られ脅かされる運命にある。心身は車の両輪の様なもので、精神と身体は互いに作用しあって、生命が形成されている。

人間も自然物である。因果関係により理性では対応しきれない原因でとんでもない結果を招く場合があり、良くも成り悪くも成る。

＜世のため　人のため　ちょっとだけ　自分のため＞の精神で共済を立ち上げて６年、毎年、倍々の成長を続けているエキスパートアライアンス（株）会社がある。“人は魂を磨け”と日本全国辻説法を叫び続けて６年、平成１７年６月２２日で、丁度１,０００回目の中川博迪（ひろみち）氏を尊敬します。病弱な日本を健康な日本に変える男である。毎年、恵まれない団体に寄付している。早稲田留学生団体にも寄付している。タイ国に小学校を建設している。私も協力して、日本を健康な日本に変える運動に参加し活動しています。

自分の会社収益しか考えないのは、不健康である。よごれた魂、曲がった魂ではいくら美味しいご馳走を食べても不健康です。権力の亡者、金の亡者、不動産の亡者では不健康と言える。公務員の二重帳簿、談合、収賄等何時かは必ずバレル不正の温床は不健康である。裁判の遅いのは明るい社会とは言えず不健康である。ＯＢがらみの談合、汚職が長年に亘って行われている道路公団。道路標識で制限速度１０キロ以上を取り締まる関係上、表示を現実より低くして、かえって危険度が増している。遵法精神が麻痺し、悪循環となって、本当に交通安全を考えているのか疑わしく、不健康である。

動物と異なる人間は魂が問題である。自分の魂が現在どのくらい磨かれているか認識することが大切です。人が死んだ時、一粒の涙と一本のお線香を立てて下さる人が何人いるかで、その人のほんとうの価値が表される。

旺盛な正義感こそ健康の核であり、正義へのあきらめは不健康への道である。正義に対するあきらめは精神衛生上病気である。必ず身の健康に悪影響を及ぼす。

価値観と言う広大な幅の中で、何を最優先に考え、何が魂の中心の核であるかを考える。

魂を磨いて、しなやかに颯爽と生きることこそが健康である。魂が磨かれているかどうか。魂の輝きが活力であり、それが健康への道であると思う。

会員の声

＜鑑賞記三題＞　　菱山　房子

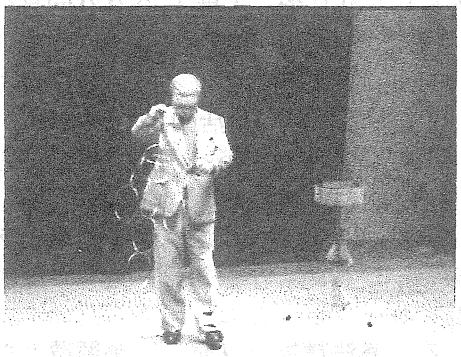
○なぜ！不思議！　大盛況のマジックショウの会場で大人も子供も一生懸命目を凝らしていました．この日主催者のマジックｂｏｘのメンバーとして、当会元会長安宅武一さんが出演されました．安宅さんはプログラムの最後を飾る“Ｏｈ、輪ンダフル”でばらばらの金属の輪から、一瞬のうちに見事な技で大きなシャンデリアを作って見せてくれました．平素はボランティアとして請われ、各所で公演されている由、敬服しました。終わりに挨拶に立たれた安宅さんは、沢山の花束を受けられ、満員の入場者に満面の笑みを見せてくれました．（６月１２日　成美教育会館）

○宝生会能五月五雲会公演に、当会員竹山信保さんのご子息・悠樹さんが出演されました。プログラムの始め「金札」（きんさつ）では、難しいと言われる間（あい）狂言の役を立派に努められました。演目の狂言「二九十八」で主役を演じた悠樹さんは、人間味あふれる庶民的な滑稽味、面白さを見事に表現し、満場に笑いが広がりました。

初めて悠樹氏の初々しい舞台を鑑賞してからわずか三年位でしょうか。若さとはなんと素晴らしいんでしょう。（５月１４日　宝生能楽堂）

○当会員　辰巳徳蔵さんご令嬢・京子さんが室内楽ゴールデンコンサートに出演されると聞き女性部のメンバー４人で出かけました．この日京子さんはベートーベン：ピアノ三重奏曲第１番ｏｐ．１－３を華やかにまた力強く、落ち着いた雰囲気で弾いてくださいました。演奏の京子さんに手を伸ばせば届くほど近い席で聴き、とても真面目なお人柄、日頃の研鑽ぶり、精進ぶりが身近に感じられ感動しました．盲目のバイオリニスト安藤正太郎さんも実に澄んだ音、伸びやかな弦の響きを聞かせて下さいました。私達は満たされた心持ちで満席のコンサートホールを後にしました。（５月５日　アトリエムジカ）

趣味悠遊 ― 会員作品紹介



マジック
安宅　武一さん

写真　（トルコ、ベルガモン宮殿）
臼田利忠さん

＜漢字と私＞―２　　北野直衛

「風」― 形成文字～声符は凡。卜文と風の字形は、鳳形の鳥の形で、その左や右上に声符として凡の加えていることがある。冠飾をつけて、神聖な鳥の形にかかれている。

この歌は平安時代の歌人の持つ感性の鋭さを感ずる。秋になるとつい口ずさみたくなる歌である。季節の変わり目に敏感なのは、日本人本来の感性である。

秋きぬと目にはさやかに見えねども
風の音にぞ驚かれぬる　　藤原敏行

「風」には音があったり、香りがあったり、感触があったり、移ろいがあったりする。冬の風には音がある。ひゅうひゅうと荒野を抜ける音がある。春の風には香りを感ずる。梅の花などは早春の香りの最たるものである。夏の風には、汗を退かせる感触がある。

秋の風には、季節の移ろいを感じさせる。紅葉の落ち葉の敷き詰められた公園を歩いていると、風も幽かなのに木の葉が舞い散ってきたりする。落ち葉の進んだ桜の枝には、来るべき春の準備も始まっており、小さな蕾も見える。秋の風には、また、寂しさと物思いがつきまとう。自然の変化は、秋に季節が終わって、冬に一段落して休養し春を待つという感じは、動植物も人間にも共通しているような気がする。自然界では今年も今年の終わりを告げているのである。

［編集後記］○2012年第30回夏季五輪がロンドンで開催されることが決まった。勝者の歓喜、敗者の落胆振りを見るにつけ、サッカーWCの日韓共同開催のような議論がＩＯＣにもあってよかったのではと、思う。欧州は統合に向けて歩を進めている筈だし、開催は7年も先のことだ。○36年のベルリン五輪の棒高跳びで、西田修平さんと大江季雄さんが銀・銅を分け合った。夫々メダルを半分にして貼り合わせた友情のメダルは、西田家から母校早稲田大学に寄贈された。7月16日より5日間早大にて展示公開されるとのことだ。手っ取り早くオリンピックの感激を、そして勝ち負けの無い人の情けを味わいに行こうか。